

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

100

春の特集展

永山亘コレクション展

— 集め続けて三〇年、資料が語る
炭鉱(ヤマ)のくらし —

福島県立博物館



春の特集展

永山亘コレクシヨン展

―集め続けて三〇年、資料が語る炭鉱(ヤマ)のくらし―

二〇二二年三月五日(土)～五月一日(日)



バッテリー・ランプ付ヘルメット



タンガラ



改良ヅル

第二次世界大戦後の日本経済の復興に大きな貢献をした常磐炭田。映画「フラガール」で有名になりました。いわき市内郷在任の永山亘(わたる)さんは、戦後約三〇年にわたり常磐炭礦(株)で事務職として働き、その間、炭鉱関係の資料を集め続け、大切に保管しました。収集した資料は、採炭道具、坑夫の装備、坑木を作る道具、坑内の照明器具、専用鉄道の信号灯、炭鉱住宅での共同生活を示す資料、そして労働組合の資料など多岐にわたり、今ではほとんど手に入らないものばかりです。永山さんのご厚意で、収集した資料三〇〇点余りが博物館に寄贈されました。この機会に、寄贈資料を特集展として公開します。この展示を通して、石炭が黒ダイヤと呼ばれた時代、炭鉱で懸命に働いた人々の仕事と生活の様子や、一山一家といわれた炭鉱社会の特徴について紹介します。

隆盛を極めた炭鉱も、昭和三〇年代に起こった石炭から石油へのエネルギー転換などで、規模の縮小や閉山を余儀なくされました。そしてそのたびに、施設や家屋が壊されました。永山さんは、炭鉱を記録にとどめるため、それらカメラで撮影し続けました。そして撮りためた写真をいわき市美展に出品しようと思いつき、写真を両面テープで貼り合わせ組み写真を作り応募したところ、最高賞の市長賞に輝きました。三年間にわたり出品し、すべて受賞しました。その写真も展示しています。ぜひご覧ください。

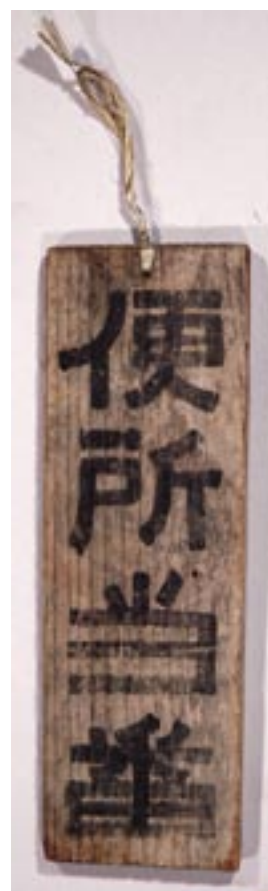
主催…福島県立博物館
協力…常磐炭田史研究会



常磐炭礦労働組合腕章



坑内安全灯



炭鉱住宅での
共同便所の当番木札

休館日：毎週月曜日(五月二日は開館)

入館料：常設展観覧料金

小中学生 無料

一般・大学生 二六〇円(二〇名以上の団体は二二〇円)

■展示の構成

- 一 プロローグ 常磐炭田
- 二 ヤマの仕事
- 三 ヤマのくらし
- 四 ヤマのおわり
- 五 エピローグ 炭鉱遺跡を歩く

■関連イベント

■展示解説会

日時：平成三三年四月三〇日(土)

午後一時三〇分

講師：永山亘氏・野木和夫氏

テーマ展

「天神さま―絵巻物から

郷土玩具まで―」関連事業

歴史講座「天神さま信仰の流れ」

日時 平成三十三年三月五日(土)

一三:三〇〜一五:〇〇

場所 福島県立博物館 講堂

講師 歴史学博士 眞壁俊信さん

菅原道真は、延喜三年(九〇三)二月二十五日、配所大宰府で、五十九歳の生涯を閉じました。藤原時平らの理不尽な行為により、道真は、運命に翻弄される人間の悲しみを背負われました。天神信仰は、悲劇の人、道真に深い同情を寄せた多くの人びとの間から発生しました。

天神信仰の発生は、大宰府地方からの発生と京の都からの発生とに分けて考える必要があります。大宰府地方からの発生については、道真と観音寺、道真の葬地大宰府安楽寺、遺言の伝承などから考えられます。そして、重要なのは、左遷先の大宰府の天拝山の山頂で、自分の無実を天道に訴えた時に、「天満大自在天神」になったことです。当時、大宰府は国際都市の様相を呈し、海外の思想に満ち溢れていました。「天満」とは、中国の思想です。「大自在天」とは、仏教の思想です。「神」とは、日本古来の信仰です。この三者が一体となり、神としての道真の神名「天満大自在天神」が生まれました。

京の都からの発生について。道真の薨去の後、延喜年間(九〇一〜二二)に、藤原時平一族の不幸が打ち続くと、道真の怨霊のたたりと信じられました。時平の薨去を火雷神の仕業とした思想は、真言宗系の人びとによって吹聴されています。ここでは、道真の名号を唱え、道真の形像を祀る必要性が強調されます。この道真の名号と形像、この二つは、天神信仰の基本的な信仰形態といえます。天神は、火雷ではなく、大富、つまり福をもたらす、という信仰の発生です。

道真の子淳茂は、菅家の箕裘を嗣いで、門風を賞賛しました。淳茂の子息在躬は、承平・天慶年間(九三二〜四七)に、祖父道長の伝記『菅家伝』を編纂しました。



北野天神縁起絵巻第五卷(国宝の模本)

道真に関して、最も古く、最も信頼性の高い伝記です。史実ばかりではなく、伝承的な記事もありま。道真の伝記以外にも、弓射の嗜みの伝承も含まれてい。道真が儒学的教養や徳行にすぐれていた、ということ。紀伝道の人びとの憧憬を集めたもので、天神信仰のうえでは、最も重要な伝承の一

つです。

『菅家伝』にせよ、『菅家御伝記』にせよ、道真の子孫によって著述されたところに、彼の伝記の特色があります。歴史のなかに、道真の史実と伝承を、織り成して尊ぶのではなく、道真の史実を正しく追求する姿勢です。これも天神信仰の特徴です。

禅僧等による渡唐天神への信仰については、応永元年(一三九四)頃から、禅僧の間で語られています。日本と大陸との交易の活発化により、鎌倉時代の円爾弁円が道真・天神に対して、彼の国の径山の無準師範に参ずることを進めた、という伝承が背景となつて生じた信仰です。和漢融合、儒仏一致、詩禅一致などの思想が底流に流れていると論じられています。渡唐天神思潮の普及に伴い、おびただしい数の渡唐天神画像が描かれ、讃文も数多く執筆されました。

「渡唐天神像と住吉神像」ですが、今回、初めてこの画像を公開しました。良純親王の讃文は、渡唐天神が住吉の浜に上陸の際、住吉大明神が迎える場面に書かれています。渡唐天神像と住吉神像がいっしょに描かれていることは、大変貴重です。



渡唐天神像(左)と住吉神像(右)

(要約 学芸員 佐藤洋一)

Q・昨年の秋、会津若松市や喜多方市で会津・漆の芸術祭が行われているのを見ました。どのような目で開催されていたのでしょうか。

A・・・ご覧くださってありがとうございます。会津・漆の芸術祭は、福島県立博物館と福島県、会津・漆の芸術祭プロジェクト委員会が主催となつて行いました。最近、各地で地域振興を目的とした芸術祭が行われています。有名なものでは新潟県十日町市を中心とする妻有地域で3年に一度行っている越後妻有大地の芸術祭や昨年香川県を中心に行った瀬戸内国際芸術祭があります。会津・漆の芸術祭も漆という会津ならではのテーマで作品を展示し、多くの方に会津の魅力を発見してもらおうことを目的としました。

会津・漆の芸術祭

それに加え福島県立博物館が主催となつて行った目的は、これまでの博物館活動を博物館から外に出る多くの方に紹介しよう、ということでした。

福島にはさまざまな文化資源があります。これまでに、福島県立博物館ではそれらを調査し企画展や報告書などでみなさんにご紹介してきました。会津の文化資源である漆も考古、民俗、歴史、美術それぞれの分野で調査してきました。博物館を飛び出し、街の中でその成果をよりみなさんに楽しく、わかりやすく紹介するために取り組んだのが会津・漆の芸術祭です。

博物館のこれまでの活動成果をアーティストのみなさんに見ていただきそれを反映させた作品を制作してもらったり、アーティストのみなさんと会津の職人さんたちの作品共同制作を企画しました。

会津が既にもっている文化的な財産を博物館が媒介しアーティストにつなげる。会津・漆の芸術祭は、博物館のこれまでの活動を地域のためにどのように活かせるかを考えるテストでもありました。

Q・会津・漆の芸術祭にはどのぐらいの作品が展示されていたのでしょうか？またイベントも行っていましたが。

A・・・会津・漆の芸術祭には97組のアーティストや職人さんたちの作品を展示していました。会津若松

Q&A

回答者
美術分野

小林めぐみ

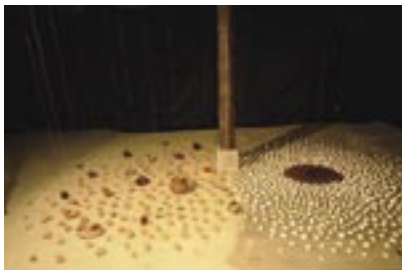
市、喜多方市、三島町、昭和村の61の会場に展示会場として協力いただきました。広範囲、多数に渡る展示会場を数日かけてまわってくださった方もいらっしゃるかもしれません。全部ご覧になれなかった方もいらっしゃるでしょう。展示の様子を掲載した会津・漆の芸術祭の報告書を作成しました。報告書にはイベントの内容も記載してあります。

芸術祭とあわせて県立博物館で行っていた企画展「漆のチカラ―漆文化の歴史と漆表現の現在―」の関連行事報告書も作成しました。縄文時代から現代までの漆の歴史と現代の5人のアーティストによる

漆表現を紹介した企画展は、会津・漆の芸術祭の背骨のようなものでした。関連行事も多種多様な内容になりました。

これら報告書は博物館受付で無償配布いたします。数に限りがありますのでご希望の方はお早目にお申し出ください。

Q・今年も会津・漆の芸術祭はあるのでしょうか？
A・・・今年も同時期に開催しますが、会津・漆の芸術祭2011はテーマを「東北へのエール」に変更しました。東日本大震災により福島県そして東北地方は未曾有の困難に直面しています。全国から東北へのエールを受け止め発信する掛け橋として、会津・漆の芸術祭は生まれ変わります。応援宜しく願います。



会津・漆の芸術祭より
杉原信幸他 赤裸の核
展示会場 末廣酒造



企画展「漆のチカラ―漆文化の歴史と漆表現の現在―」関連行事報告書



会津・漆の芸術祭事業報告書

常磐炭田の産業遺跡

竹谷陽二郎 自然担当

現在当館で開催中の、常磐炭田の資料を集めた特集展「永山亘コレクション展」を準備している中で感じたのは、常磐炭田に関連した構造物が現地にたくさん残っていると言う事です。常磐炭田は昭和六〇年（一九八五）に全て閉山しました。閉山に伴い、炭鉱の坑道、諸設備、専用鉄道、炭鉱住宅など、炭鉱に関する諸々の物が壊されました。それでも堅牢な構造物は残されています。今回のコレクションの寄贈者である永山亘さん、そして常磐炭田史研究会の野木和夫さんに、いわき市の炭鉱跡を案内していただきました。最初は廃墟としか見えませんでした、そこで説明を受けて改めて構造物を眺めると、結構面白いと感じました。例えば、常磐炭礦内郷礦

の、坑口、中央選炭場、水中貯炭場・万石を見ると、石炭を採り出して選炭し、貯蔵して運び出す流れが良く解ります。残された炭住（炭鉱住宅）や商店街跡を見て歩くと、住んでいた人々の生活の様子を垣間見る事が出



常磐炭礦内郷礦住吉一坑坑口

来ます。炭鉱で働いていた人が語り部となり、ツアーを組んで炭鉱跡を見て回ると、それぞれの遺跡が結びついて、ストーリーをもった歴史として実感することができます。

平成一九年に、常磐炭田に関連する遺跡が、「経済産業省指定の近代化産業遺産群三三」の内のひとつに指定されました。産業遺産（インダストリアル・ヘリテージ）とは、特に近・現代産業の発展に大きな役割を果たした産業の、施設・建築物・構築物・設備などを指します。それらは日本の近代化に貢献した産業とその発展を支えた人々の努力を実証する「文化財」と言えるでしょう。同じ年、常磐炭田の遺跡に人々を案内して炭鉱の歴史を伝えるために、「いわきヘリテージ・ツーリズム協議会」が設立されています。炭鉱遺跡のツアーを通して、地域の歴史を学び、地域の特長を知り、地域を支えた先人を誇りに思うことは、地域を発展させる活力に繋がります。

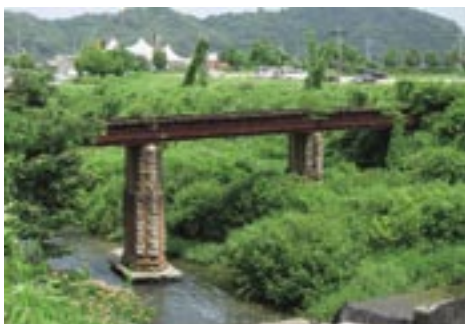
私は「磐梯山ジオパーク」を進めているひとりで、ジオパーク（大地の公園）とは、ユネスコの支援を受けヨーロッパで誕生したもので、日本各地でもジオパークを目指す地域が増えています。大地を



常磐炭礦内郷礦中央選炭場

ベースとして、その地域の自然や歴史を学ぼうというものです。ジオパークの中の見所（ジオサイト）をガイドの説明を受けて見て歩く事により、大地の成り立ちを知り、大地の上に生息する動植物の特徴、そこで育まれた歴史・文化など人間の営みを、楽しんで学ぶことができます。

産業遺跡とジオパークに共通しているのは、ガイドによる説明を受けながら見て回るツアーを重視する点、地域にある資源を活用して地域の活性化に繋げようという点です。地域を良く知っている人が説明するツアーは、大人数で押しかけ短時間で観光地を回るといふ観光ではなく、じっくりと地域の自然と歴史を学ぶという、新しいタイプの滞在型の観光に対応出来ます。このような新しい取り組みは、博物館活動の一環としても捉える事が出来ます。具体的な活動として、各団体と連携した研究による遺跡やジオサイトの価値付け、出前講座や講演会などによる地域住民を対象とした普及活動、ツアーガイドの養成、ツアーの開催など、様々な方法があります。博物館の中だけが博物館の活動の場ではありません。地域をひとつのミュージアムとして捉え、博物館としての活動を地域で展開する事が、今求められていると思います。



古河好間炭礦専用鉄道橋梁

大和川酒造コレクション展Ⅰ
大和川酒造コレクション展Ⅱ

会 期：平成23年4月23日(土)～6月5日(日)…Ⅰ期
6月7日(火)～7月18日(月・祝)…Ⅱ期
会 場：部門展示室「歴史・美術」
観覧料：常設展観覧料でご覧いただけます。
一般・大学生260円／小中高生・無料

江戸時代寛政年間創業と伝える喜多方市の老舗酒造店大和川酒造には、歴代当主が収集した作品、喜多方を訪れた画家たちが残した作品が残され、今も守り伝えられている四季折々の年中行事を彩っています。コレクションの中から掛け軸、陶磁器約50点をご紹介します。



武者小路実篤「武者人形図」
昭和26年(1951)



東東洋「恵比寿神図」
(江戸時代後期)



「染付山水文徳利」
(江戸時代後期：会津本郷焼)

■会期 前期 平成三年七月九日(土)～七月二十七日(水)
後期 平成三年八月二日(金)～九月十九日(月・祝)



遮光器土偶(秋田県藤株遺跡)

この夏、東北大学に所蔵されている考古資料が一堂に会します。これらの多くは普段、東北大学片平キャンパス内にある文学研究科考古学陳列館に収蔵されており、その一部は東北大学総合学術博物館において一般に公開されています。このなかには、東北地方各地の縄文時代遺跡を精力的に調査し、日本の縄文文化研究に大きな業績を残した山内清男や、東北地方の弥生時代研究で常に指導的な立場にあった伊東信雄などが、その調査・研究のなかで収集した学説の根拠としてきた重要な資料が含まれています。また、歴史の教科書などでよくとりあげられる遮光器土偶や青森県亀ヶ岡遺跡出土の縄文土器、重要文化財に指定されている宮城県沼津貝塚の骨角器など、縄文文化を代表する資料もご覧いただけます。

夏休みのひととき、博物館で考古学の世界をご堪能ください。皆さまのご来場をお待ちしております。

「東北考古学の挑戦」
―一挙公開！東北大学所蔵の考古資料―

夏の企画展 予告

特集展

※常設展料金で観られます

春の特集展

「永山亘コレクション展」

会期 5月15日(日)まで

◎春の特集展開連行事

展示解説会

日時 4月30日(土)

会場 福島県立博物館収蔵資料展示室

講師 常磐炭田史研究会会員

永山亘さん、野木和夫さん

テーマ展

「ふるさとの考古資料1―会津若松市「遺跡探訪」

会期 5月15日(日)まで

「天神さま―絵巻物から郷土玩具まで―」

会期 4月17日(日)まで

「大和川酒造コレクション展I」

会期 4月23日(土)～6月5日(日)

◎テーマ展開連行事

「大和川酒造コレクション展ギャラリートーク」

日時 5月8日(日)13時30分～14時30分

会場 福島県立博物館部門展示室歴史美術

講師 学芸員 川延安直、小林めぐみ

「ふるさとの考古学2―会津美里町「遺跡探訪」

会期 6月4日(土)～平成24年5月13日(日)

◎テーマ展開連行事

「ふるさとの考古学2」講演会

日時 6月19日(日)13時30分～16時10分

会場 福島県立博物館講堂

講師 会津美里町教育委員会 梶原圭介さん、阿部健太

郎さん

「大和川酒造コレクション展II」

会期 6月7日(火)～7月18日(月)

ポイント展

「小さな雛まつり」

会期 4月3日(日)まで

「十三参りに着た手織りの着物」

会期 4月6日(水)～5月11日(水)

「畫名亀若丸朱印状」

会期 4月16日(日)～6月3日(金)

「ぜんまい綿の着物」

会期 4月21日(木)～6月3日(金)

「恐竜が食べた!?植物の化石」

会期 4月23日(土)～6月3日(金)

「飯豊山参拝図」

会期 5月28日(土)～6月24日(金)

ミュージアムイベント

「玄如節と会津の民謡」

日時 5月21日(土)13時30分～15時

会場 福島県立博物館エントランスホール

演奏 玄如節顕彰会のみなさん

土曜の広場

「遠野物語」を読む13

日時 4月2日(土)13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 館長 赤坂憲雄

「遠野物語」を読む14

日時 5月7日(土)13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 館長 赤坂憲雄

「遠野物語」を読む15

日時 6月4日(土)13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 館長 赤坂憲雄

講演・講座

※は要申込

○民俗講座

企画展図録で学ぶ民俗学1「福とくらし」

日時 6月11日(土)13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 学芸員 佐々木長生

○歴史講座

保科正之シリーズ1

日時 5月21日(土)13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 学芸員 阿部綾子

保科正之シリーズ2

日時 5月28日(土)13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 学芸員 高橋充

保科正之シリーズ3

日時 6月18日(土)13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 学芸員 佐藤洋一

○実技講座

※「小旗を作る」

日時 5月5日(木)13時30分～15時

会場 福島県立博物館体験学習室

講師 伝統技術伝承者 大野青峯さん、大野久子さん

実演

「普語り」

日時 5月1日(日)13時30分～15時

会場 福島県立博物館体験学習室

講師 語り部 横山幸子さん

やさしい展示解説

- ・展示解説員による常設展総合展示の案内です。
- ・毎週土曜日、日曜日の11時と14時から30分ほど行います。

- ・要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。
- ・その他、行事等の詳細に関しては、月行事予定ホームページをご覧ください。

常設展無料開放日

5月5日(木)こどもの日

4月～6月の休館日

- 4月 4日(月)・11日(月)・18日(月)・25日(月)
- 5月 9日(月)・16日(月)・23日(月)・30日(月)
- 6月 6日(月)・13日(月)・20日(月)・27日(月)

謹んで震災被害の お見舞いを申し上げます。

この度の東北地方太平洋沖地震により被害を受けられました皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。当館では、地震後、安全点検のために臨時休館となっておりますが、三月二十六日より被災された方々を対象とした部分開館を実施しております。今後、この「博物館だより」で紹介した展示や行事等の案内は、実施の有無を含めて、日程が変更になる可能性がありますので、ご了承くださいませ。新しい情報や変更点につきましては、当館ホームページをご覧くださいませ。電話でのお問い合わせください。

福島県立博物館